

# 特集・放送記念日 NHK「公共メディア」を支える関連団体 トップのことば

## 「美術の力でNHKを支え、社会を豊かに」 最先端の映像表現とSDGsへの取り組み

NHKアート



平田恭佐社長

第98回放送記念日、おめでとございます。NHKアートは今年、創立62年目を迎えます。創立以来、絶え間なく進化を続ける放送技術と放送を取り巻く環境の変化

のなかで、時代に合わせ、高い映像美術を追求し、総合美術会社として放送文化の発展を支えてきました。番組制作のデジタル化が進み、リアルとデジタルを融合

させ映像表現の世界を広げる技術がますます求められるようになってきました。1月から放送が開始された大河ドラマ『どうする家康』では、バーチャルプロダクションを導入した新たな演出、

屋外シーンの多くをスタジオ収録するなど、リアルタイム撮影における表現の選択肢を増やし、リアルとデジタル技術との融合による新たな美術制作の試みを重ねて

います。また、ドラマ10『大奥』や、2022年の大河ドラマ『鎌倉殿の13人』では、手描きのパノラマを使用した「デジタル障壁画」の技術や、建物の保管・管理とサステイナブルな運用にも注目が集まりました。

デジタル・グラフィック部門では、アートディレクションとCG制作を担当した『映像の世紀 パタライエフェクト』が、第70回菊池寛賞を受賞しました。

SDGsに配慮した美術セットの研究・開発に

も社を挙げて取り組んで、月にリニューアルされた『あさイチ』の新セットや、9月に放送された『1・5℃の約束』の1・5℃の約束、気温上昇を止

めるために』をはじめ、複数の番組でサステイナブル素材を使用したセット製作を提案し、さまざまな素材が採用されました。床材、クロマキール、番組で使用するパターンの素材にもサステイナブル素材の導入が進んでいます。同じくNHKと

連携する「美術用品のSDGsプロジェクト」では、NHK放送センター内の『美術リサイクルコーナー』を障壁画のデザインを用いてリニューアルし、廃棄物の分別を徹底したことでリサイクル率が上昇。ほかにもセットの製作過程で出る布や紙、木材の端材を使用し、自由な作品を作るワークショップを実施し、NHKの環境経営と視聴者リレーション活動に貢献しています。

他にもSDGsに関係する試みとして、さまざまなコンテントへのユニバーサルデザイン（以下UD）の導入に取り組んでいます。UDカラーに対応する共通カラーパレットの導入や、体制強化のための「UDコーディネーター」有資格者の育成、ダイバーシティ&インクルージョンに関する勉強会などを実施し、映像メディアやイベントにおける幅広く体系的な知識の習得に努めています。

イベント部門では、3年ぶりのリアル開催となったNHK放送技術研究所「技術公開2022」において、UDカラー・フォントやサステイナブル素材を取り入れた会場設計・施工を行いました。また、本研究所と弊社のデジタル部門が共同開発

したAIによるリアルタイムプロジェクションマッピングや、ふだんからサイト運営を担うデザイン部門がメインビジュアルのデザインとオンライン会場となる特設ページの運用も行ったことで、総合美術力を結集して対応しました。

ホール部門では、改装を終えたNHKホールで2年ぶりに開催された『紅白歌合戦』やその他の番組、催事に対応している各ホールでの演奏やイベントの様子の配信、動画収録、編集といった、コロナ禍で高まった新たなニーズに応える業務も展開しています。番組制作だけでなく、ワークフローや職場環境整備でもDX化を推進し、生産性の向上や「多様な働き方」の実現に取り組んでいます。多様な人材が活躍できる環境の整備と、専任性と創造性を重視した人材の育成を積極的に進めることで、放送文化をより魅力的なものにし、その発展を支えていきたいと考えています。

アートが変わるといふビジョンを掲げ、「変革」に挑み続けた3か年経営計画は今年が最終年度となります。「信頼」を「情熱」をキーワードに、60年を越える歴史が育んできた「信頼」を基盤に、社員一人ひとりが「情熱」を持ち、視聴者のみなさまに届くコンテンツをより魅力あるものにするべく挑戦を続けてまいります。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。